

1 学校教育目標

○自ら学び向上し合う生徒 ○心豊かで協力し合う生徒 ○健やかでたくましい生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着と向上をめざす学校。(基礎基本の徹底、キャリア教育の充実) ・生徒が安心して楽しく学び、豊かな人間性を育む学校。 ・保護者や地域と連携協力した教育活動を推進し、保護者、地域の信頼に応える学校。
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい時代を創造する、心豊かでたくましい生徒。 ・生涯学び続ける意欲と、基礎学力を身につけた生徒。 ・基本的な生活習慣、人権尊重精神、国際感覚等、社会人としての資質を身につけた生徒。
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・常に生徒を第一に考え、学校教育の課題に積極的に取り組む心身ともに健康な教師。 ・教科指導と生徒指導の専門家として自覚と誇りを持ち、絶えず研鑽と向上に励む教師。 ・法を守り職務に専念し広い視野と高い見識を持ち都民、区民、保護者から信頼される教師。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

21年度から「足立区で一番の学校をめざそう」をスローガンに掲げ生徒、教職員一体となり生活習慣の見直し、授業規律の確立など積極的に取り組んできました。昨年度保護者の皆様の学校評価で、「学校の雰囲気」と「来客に対する生徒の挨拶」について高い評価をいただきました。今年度全校生徒200名を超え、昨年以上に生徒たちは明るく元気に学校生活を送っています。

○生徒について

明るい挨拶ができ保護者の皆様、地域の方々から高い評価をいただいている。また、学習意欲が徐々に高まり授業規律も定着し落ち着いた雰囲気です。しかし、まだまだ学習到達度の差が大きく、放課後の学習支援や家庭学習習慣を定着させたい。

○教師について

土日の部活動や毎日遅くまで授業の準備をするなど、花保中の生徒のために熱心に取り組む教員が多い。今年度新規採用教員5名配属され、若手教員と共に指導力向上を図るための指導体制を充実させたい。

○保護者・地域について

保護者や地域の方々には学校の教育活動に大変協力的である。また、関係町会や青少年団体の行事も活発で「地域の子供たち」を大切に育てようと暖かく見守っていただいている。土曜授業や学校公開週間に多くの保護者・地域の方々に参加していただき、これまで以上に学校に関心を持っていただく。

<前年度の成果と課題>

○小中の連携を図り中1ギャップの解消と基礎学力の定着を図る 小、中教員の合同研修会を施し相互理解が深まった。また、小学生の部活動体験や授業体験の実施や、中学校の教員による授業など小学生の中学校生活に対する理解を深めることができた。小中9年間を見通した生活指導、教科指導の連携を密にすることが今後の課題である。

○「教え、考えさせ、分かる」授業の推進 生徒による授業評価を分析し、授業改善プラン作成に活かし「教え、考えさせ、分かる」授業を推進した。また、他の教員の授業を参観し互いに授業を検討することで授業改善に取り組んだ。また、若手教員による研究授業を通し中堅、ベテラン教員の授業改善意識が高まってきている。今後、生徒の興味・関心を引き出すため電子黒板等を中心としたICT教育の充実が課題である。

○放課後の自主学習の支援と家庭学習の定着 全教職員で生徒の放課後の学習支援に努めた。徐々にではあるが自主学習の習慣が定着しつつある。また、生活指導記録(デイリーノート)の点検を通し生徒一人一人家庭学習の取り組み状況を把握し、個人面談等で丁寧に指導し、個々の習熟度に応じた学習課題や方法を助言することができた。放課後の補充学習の充実のため、地域の人材、学生ボランティアの協力を得ることが課題である。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		21	22	23	24	25
1	小・中の連携を図り中1ギャップの解消と基礎学力の定着、向上を図る		○	○	○	○
2	「教え、考えさせ、分かる」授業の推進		○	○		
3	放課後の自主学習の支援と家庭学習の定着			○		

5 平成23年度の重点目標

重点的な取組事項－1 小・中の連携を図り中1ギャップの解消と基礎学力の定着、向上を図る		
A 今年度の成果目標		達成基準
新1年生の「学習」・「友達関係」・「生活」の3つの項目についての「不安」を解消する。		4、7、12月に「学習」・「友達関係」・「生活」の3つの項目アンケート調査。不安なし回答80%以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
補充学習の充実	週に3時間以上放課後に補充学習を実施。	漢字、基礎計算などを中心に学習支援ボランティアを導入し補充学習を行う。
教育相談、面談の充実	教育相談期間年3回設定。個人面談年6回以上実施。	個人面談で生徒の悩みや思いを把握し、家庭との連携を密にとり情報を共有する。
小中連携を深めるための合同研修会の実施と一貫した指導の継続	年3回合同研修会の実施。年6回以上の小中主幹会議を実施	中学校での学習、友人関係、生活について情報提供し小中連携した指導体制の構築。
重点的な取組事項－2 「教え、考えさせ、分かる」授業の推進		
A 今年度の成果目標		達成基準
全教科生徒による授業評価を実施し、すべての項目について肯定的な評価を得る。		すべての項目で、肯定的な評価80%以上。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
教育機器の有効活用を推進する	電子黒板やハイスピードカメラなど ICT 機器を活用した授業実践を年10回実施する。	ICT 機器活用の校内研修を3回実施。全教員が授業などで電子黒板やハイスピードカメラ等を活用できるようにする。
校内研究授業の充実	年間延べ15人以上の教員による研究授業の実施。	新規採用教員、若手教員の研究授業を計画的に実施し、中堅、ベテラン教員の模範授業も実施する。
生徒一人一人の基礎学力向上に向け漢字・計算・単語力テストの実施	各テスト80%以上の正解を合格とし、再テストを含め合格者85%以上を目途とする。	各テスト、前期1回、後期1回計6回実施。再テストも行い基礎学力を定着させる。合格者には、合格証を発行し意欲を高める。
重点的な取組事項－3 放課後の自主学習の支援と家庭学習の定着		
A 今年度の成果目標		達成基準
学習支援ボランティアと全教員が連携し、週3時間以上放課後における補充学習を実施する。		学習ボランティア8名以上確保する。全教員が週2回以上放課後の学習支援に関わる。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学生ボランティアの確保と地域人材のリストアップ。	学習支援ボランティアや学習指導のできる地域人材を8名以上確保する。	開かれた学校づくり協議会委員やPTAの方にご協力をお願いし、放課後生徒の学習支援のできる人材を紹介していただく。
各教科で自習教材の見直しと改善。生徒の達成度に合った教材の開発。	国語、数学、英語の3教科を中心に生徒の到達度に応じた自習教材を10以上開発する。	国語、数学、英語について定期考査で平均点以下の生徒を対象に放課後の補充学習を行う。
家庭学習の支援	年度末に生徒にアンケート調査し週平均30分以上家庭学習をした徒70%以上を目標	毎日生活記録等の点検を通し、家庭学習をしなかった生徒への支援。また、習熟度に応じた家庭学習教材を工夫、改善する。